

まちなかにおける芸術活動に関する研究
一場の利用と参加態度を通して

A study on the Art Activities Performed Outside
-Through a Use of Places and a Participating Attitude to Arts-

○堀切梨奈子¹, 佐藤慎也²

*Rinako Horikiri¹, Shinya Satoh²

In recent years the art activities performed outside are increasing. There are exist not only an artist(sponsor) and spectator(participant) but the "citizen". Moreover, many production which does not stop a spectator in the participating attitude of an appreciation person is performed. And space also changes from the act which changes into performance time "to play/to see".

By this research, I added the "citizen" to the "sponsor" and the "participant". And then the technique of the art activities performed outside was clarified and what a work and a place gained, respectively.

1. 研究背景・目的

近年、劇場や美術館ではない空間を利用した演劇の上演や展覧会など、芸術作品がまちに出て展開されている。このようなまちなかでの芸術活動は、アーティストである「提供者」と観客である「参加者」だけの関係ではなく、そのまちに暮らす「生活者」も作品が成立する上で欠かせない存在であると気付いた。

また、上演時間中に観客を鑑賞者という参加態度に留まらせないような演出が多く行われている。提供者だけが「演(や)る行為」を行う側ではなく、観客が参加者として能動的に動くことによって作品が成立することもある。さらに、「演(や)る/観る」ふたつの行為は上演時間中変化し、互いに影響しあう存在であり、同時に空間も変化する(図1)。^{註1}

本研究は「提供者」と「参加者」という概念に「生

活者」を加え、まちなかでの芸術活動の手法を考察する。それにより、まちなかでの活動によって作品と場が獲得するものは何かを考えるものである。

2. 研究方法

研究対象について実踏調査を行い実態を把握する。

上演が行われる場の「平常時、直前、上演時」3点について場と人の構成にどのような傾向がみられるのかを調査する。「平常時」は作品の入っていない状態の上演場所、「直前」は作品上演前の準備段階を指す

3. 研究対象

大都市における公的活動「東京文化発信プロジェクト室」「オープンヨコハマ2011」の活動から次の4条件で対象作品を選定。また、参考に「トロールの森2011」と「にゅー盆踊り大会」も考察する(表1)。

- ①劇場や美術館といった上演や展示を専用目的として持たない場所で上演された作品。
- ②上演時間をもつ作品。
- ③常設ではなく、限られた期間内に行われる一時的なプログラムをもつ作品。
- ④フライヤーやインターネットなどで公に事前告知の行われた作品。



Figure1. The relation of the act play and see

Table1. The list for research

プロジェクト名	作品タイトル	ジャンル	時期	場所	分類
東京都文化発信プロジェクト室	パブリックドメイン	演劇	2010年	池袋西口公園	c
	完全避難マニュアル 東京版	演劇	2010年	山手線沿線	c,d
	refreedom 国民投票プロジェクト	演劇	2011年11月	都内各所+福島県	b
	谷中妄想カフェ~ちようちんもってちよっとそこまで~	ツアー	2011年	谷中界隈	b
	谷中妄想ツアー おしゃれ	ツアー	2011年11月	谷中界隈	b
	ヒガムコ sound table	体験型展示	2011年11月	東向島咖啡店	c
	shall we 路地?	パフォーマンス	2011年12月	フラワーロード	d
オープンヨコハマ2011	豊島区在住アトレウス家	演劇	2011年9月	千登世橋文化創造館	b
	矢内原美那の zoo zoo scene	ダンス	2011年10月	野毛山動物園	a
	これが最後であるかのように	参加型パフォーマンス	2011年8月	伊勢佐木モール	c
トロールの森 2011	The Black Box	パフォーマンス	2011年10月	赤レンガ倉庫、KAAT 他	e
	いのちのオンパレード	マイム劇	2011年11月	善福寺公園	a
単発ワークショップ	「劇団☆死期」野外公演	人形劇	2011年11月	善福寺公園	a
	にゅー盆踊り大会	ワークショップ	2011年8月	池袋西口公園	e

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・教員・建築

4. 研究結果

4-1 場の利用

1) 平常時

屋外と屋内の2つに分けられ、屋外は広場や路上など不特定多数が行き交う場所、屋内は商店や文化施設など利用者が限定されている場所が多くみられた。

2) 直前

上演の準備が行われる場合と、何も場に対する準備が無く上演が始まる場合に分けられる。広場の中心に櫓が組まれることで、生活者に対して何かが始まることを予知させ、参加を促す作品もある。

3) 上演時

場の独立性を高め劇場や美術館などの専用施設のように外的な影響がない場合がある。

4-2 作品に関わる人の参加態度

作品に関わる人を提供者、参加者、生活者の三者に分け、その関与形式によって表2のように分類する。

4-3 組み合わせによる関わり方のタイプ

上演時間中、上演空間で三者がどのような関わり方をしているのかを、図2のように分類した。

1) type a.

参加者と生活者がほぼ同等な観客となってパフォーマンスを鑑賞する場合。日常生活と異質なものが始まることで注意をひきつけ、生活者を鑑賞者として取り込むことができる。

2) type b.

生活者は上演に意識的には関わらないが、作品にとって場をつくる要素である場合。「生活者は、無意識のうちに作品の一部となり、参加者や提供者からは舞台装置の一部のようになる。

3) type c.

参加者だけが意識をもって場に出ることで作品が成立する場合。参加者の一体感によって場は異様な空気を放つ劇場となり、まちは生活者の日常生活が営まれ続ける大きな舞台装置となる。

4) type d.

生活者が参加者を積極的に自らのコミュニティに受け入れる場合。生活者の日常に参加者は非日常として介入する。特定のコミュニティの中の生活者が直接的に作品に関わっている。

5) type e.

提供者を中心に進行するが、参加者も生活者も、参加態度を選択できる場合。参加者と生活者はほとんど同等な「参加者」として作品に関わる。

5. まとめと展望

上演や展示を目的としない場での作品上演は、まちなか全体が上演空間に内包されている。それによって、作品は演出しきれない余白をもち、その時々異なるシーンがつくられていく。一方まちは、作品の上演自体は一過性のものであっても、上演時の記憶や余韻がまちなかに残る場合もあり、まちなかに対する新たな視点や、コミュニティを生み出している場合もある。

今回調査を行った作品は、場の空間的演出だけでなく、その場にいるヒトの参加態度に委ねられる部分が大きかった。「場をつくること」を考える時、どのようにこのような要素を取り入れていくのかを思考していくことも求められるのではないかと。

【脚註】1 清水裕之：劇場の構図、鹿島出版会、1985年10月

Table2.The classification by a participating attitude

	関与形式	表示	説明
提供者	パフォーマー		パフォーマンスを行う
	作品進行		受付を主にした進行を行う
参加者	能動的関与		参加者が「演る行為」を行う
	受動的関与		「観る行為」に重きがおかれる
生活者	積極的関与		積極的に「演る行為」を行う
	受動的関与		観客と同じように「観る行為」を行う
	無意識的関与		意識しない中で作品の一部として「観られる側」になる



Figure2.Three persons' participating attitude in performance time